

平成 27 年度志津川湾におけるカキ養殖の環境容量計算業務仕様書

1. 業務名

平成 27 年度志津川湾におけるカキ養殖の環境容量計算業務 一式

2. 業務請負期間

契約日から平成 28 年 2 月 29 日まで

3. 実施業務

(1) 業務概要

本業務は、志津川湾の環境保全と水産業の発展が両立する、持続可能なカキ養殖の実現に向けて、数値モデルを構築し、志津川湾における最適なカキ養殖量を提案することを目的とするものである。

(2) 業務の内容

ア 計画準備

① 計画準備

業務を円滑に行うために、事前に具体的な検討内容、業務工程表、業務体制などを記載した業務計画書を作成する。

② 打合せ・協議

業務の実施方法、業務成果等について、発注担当と打合せを行うものとする。打合せは、事前協議、最終報告の他、必要に応じて緊密に中間報告・協議を行うものとする。

イ 資料収集・整理

志津川湾周辺における最適カキ養殖量等の推定に関する流況・水質シミュレーションの実施に必要な地形、流況、流入負荷量及び水質等の資料収集及び整理を行う。

ウ 地形条件の作成・設定

志津川湾における最適カキ養殖量等の推定に関する流況・水質シミュレーションの地形条件となる地形データの作成を行う。

エ モデル構築

① 流況・水質等再現

- 1) 志津川湾の流況・水質の再現計算を行うために、必要な既往資料（気象、潮位、流況、水温・塩分、流入負荷、水質等）を整理し、再現性の検証に必要な処理を行う。
- 2) 再現性の検証項目は、流況、水温、塩分、栄養塩等とする。
- 3) 志津川湾を対象とする流況・水質等の再現計算モデルを構築する。
- 4) 再現計算結果をもとに、以下の整理を行うものとする。
流速ベクトル図、平均流ベクトル図、水質等分布図

② 志津川湾の最適カキ養殖量等の解析

- 1) 志津川湾の最適カキ養殖量等の計算を行うために、必要な既往資料（カキ養殖の実施状況、カ

キの成長に関する知見等)を整理し、モデル構築に必要な処理を行う。

2) 志津川湾を対象とする生態系モデルを構築する。

3) 計算結果をもとに、以下の整理を行うものとする。

栄養塩の分布図、カキ等の現存量分布図、物質収支図等

4) 最適カキ養殖量等の評価

志津川湾において行われているカキ養殖について、カキ養殖量と背後流域からの流入負荷量をそれぞれ変化させた場合の計算を行い、志津湾の水環境を損なうことなく実施可能な最適カキ養殖量、環境容量について定量的に評価する。

オ 検討会資料の作成等

志津川湾の生態系構造及び最適カキ養殖量、環境容量等を解析するモデルの概要、再現計算の成果をとりまとめ、別途開催される専門家による検討会の説明資料を作成するとともに、検討会に出席する。

(3) 成果物

本業務の成果を報告書としてとりまとめ、電子納品を行う。

電子データとして、電子媒体 (CD-R) で2部を (公財) 国際エメックスセンターに提出する。

また、「紙」による報告書の提出は、報告書1部 (原図、記録紙等含む) とする。報告書製本の体裁はA4判とし、A3判図表は折り込みとする。

4. 支払

検査に合格した時は、業務請負代金請求書により一括で支払う。

5. その他

ア 本仕様書中、不明な箇所が生じた場合は、全て担当職員の指示に従うものとする。

イ 本業務に関する機密保持及び個人情報の取り扱いについては、別に定める特記事項を順守すること。

ウ 本仕様書に定めのない事項について、これを定める必要がある場合は、発注者請負者間で協議するものとする。

志津川湾におけるカキ養殖の環境容量計算業務に係る企画書作成要領

企画書は、以下の項目について、別紙様式に従い作成するものとする。

1. 業務に対する理解度

志津川湾の環境特性に関する基本認識、既往資料の収集整理の方針、再現計算モデルの構築方法を記述したうえで、再現結果の評価方針について別紙様式Aにより記述する。

2. 業務実施方法の提案

以下の項目に係る業務実施方法を、別紙Bにより記述する。

- (1) 計画準備
- (2) 資料収集・整理
- (3) 地形条件の作成・設定
- (4) モデル構築
 - ① 流況・水質等の再現
 - ② 志津川湾の最適カキ養殖量、環境容量等の解析

3. 見積金額

業務実施に関する見積書を添付する。

4. 業務実施フロー

業務実施フローについて、別紙Cにより記述する。

5. 業務実施体制

業務実施体制について、別紙Dにより記述する。

6. 業務実績

業務実績について、別紙Eにより記述する。